

# 成隣だより

平成28年11月30日  
第8号  
昭島市立成隣小学校  
校長 加賀田 真理

## 子供の語彙に「ほめる言葉」を増やす

校長 加賀田 真理

11月18日・19日に、展覧会を行いました。

各学年の発達段階に応じて、それぞれの子供たちが一生懸命に取り組んだ成果としての作品が、体育館いっぱいにから星のごとく輝いていました。素晴らしい作品を作り上げた喜びは、きっとどの子にとっても大きなものだったことでしょう。また、互いの作品を見合い、鑑賞する活動を通して「同じものを見ても、一人一人が違うことを感じる心」「同じことを感じて、一人一人が違う表現」があることについて、実感する機会となったことと思います。

さらに今回の展覧会では、これまでにない工夫として「展覧会の開会式」「鑑賞のための言葉集め」など、子供たちの意識を高める活動も行いました。

ご来場くださった大勢の皆様方からも、たくさんの賞賛の言葉をお寄せいただきました。学校全体が「ほめる言葉」に力づけられました。お忙しい中ご来場いただき、子供たちや教職員への貴重な励ましをくださった方々に心より感謝申し上げます。

展覧会のよいところのひとつは、多様な評価の観点があること。また、ひとつの評価の観点を使っても、どちらの方向性の作品であっても、よさを見つけられることではないかと考えています。たとえば数や色に注目すれば「たくさんでカラフル」「無駄がなくシンプル」、形に注目すれば「シャープな直線がすごい」「やわらかな曲線がすてき」、大きさに注目すれば「大きくて迫力がある」「小さくて細やか」など、まったく反対の表現となっても、それぞれの作品のよさや個性を認め合うことができます。

学習や日常生活の中で友達をほめようとしても、子供たちは意外と「ほめる言葉」についての語彙をあまりもっていない場合があります。もしかしたら、我々大人も「○○しなさい」「○○してはいけません」などの、注意や叱る際の言葉よりも「ほめる言葉」のほうが語彙が少ないかもしれません。展覧会の行事をきっかけに、互いの作品を見合うことで、友達や作品のよいところを見つける目を育て、それを表現する「ほめる言葉」を増やすことにつなげていきたいと考えて取り組みを進めています。日常生活の中でも、展覧会で培ったよいところを見つける目を生かしながら、友達や自分のよさをたくさん見つけて、それを言葉で表現してくれることを願っています。

今回の展覧会では、副籍交流（地域にお住いの特別支援学級・学校の児童との交流活動）にも取り組みました。展覧会という行事のよさを生かした交流や「ほめる言葉」を増やすことが「共生地域の実現」のための素地としての障害理解・障害者理解につながるよう、今後も取り組みを進めて参ります。

「ほめる言葉」をたくさんもつ子は、きっと豊かな人生を送ることができると思います。ご家庭でも、子供たちに「ほめる言葉」や観点が広がるような、言葉かけをお願いいたします。